

育児休業に関する体験記

30代 97日間取得

① 家事 ・ 育児 について	1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか 出産後、妻には体を休める事に専念してもらった。産後1カ月の家事は自分が行い、育児については、お互いにその時にできることを行っていこうと話し合っていました。 2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について 平日の日中は育児休業中である妻がワンオペをしてくれているため、仕事が終わって帰宅した後や休日は妻が休めるように家事育児をしています。 （妻 記載欄）休業取得者の家事・育児の参画の状況について 育児に積極的に取り組んでくれており助かっています。家事についても仕事をしながら可能な限りしてくれているので休める時間が確保できています。
② 仕事 について	1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか 普段から事務所内での情報共有がしっかりとできているため、特にこれといった引継ぎはありませんでした。細かな事については個別にメールやTeamsを使用して申し送りしました。 2. 評価・反省 育児休業中も時間がある時にメールや作業日報を確認できていたので、仕事への復帰もスムーズに行えました。

③ 自由 記述 (400 字程 度)	(取得者 記載欄) (例：育児休業取得の経緯、育休を終えての所感、周囲の反応) 会社として育児休業の取得推進や、実際に周りの社員が育児休業を取得して良かったといった声を聞いていた為、取得する考えに至りました。育休を終えてまず感じたのは、想像以上の過酷さという事です。夜間の授乳や寝かしつけで生活リズムは一変し、仕事以上に集中力と持久力を求められました。初産という事もあり、お互いに初めての育児であったため何もかも手探り状態でした。正解がないことに対して、戸惑う事も沢山ありましたが夫婦でよくコミュニケーションを取って、育児に対して向き合えたと感じます。大変さの一方、日々成長する子どもの小さな変化を目で見て、感じられたことは何にも代えがたい経験でした。 この3か月を通して、妻と協力し合い家事育児に取り組む事の重要性や、過酷さ、その過酷さを補う以上の子どもの成長を見守れる時間の大切さを学びました。 今回育児休業の取得にあたり、取得推進している会社や勤務する事務所のメンバーには大変感謝しています。 まだまだ男性が育児休業を取ることが当たり前の世の中ではありませんが、育児に対する環境や制度がより充実したものになれば良いなと感じております。
---	---